

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25245060

研究課題名(和文) 二〇世紀東アジアをめぐる人の移動と社会統合に関する総合的研究

研究課題名(英文) Human Migration and Social Integration in the 20th Century East Asia

研究代表者

蘭 信三 (ARARAGI, Shinzo)

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：30159503

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は以下のようである。(1)20世紀東アジアの人の移動は、日本帝国の形成と崩壊とともに、世界的な労働力移動と密接に絡み合っていたことを諸事例から明確にした。(2)ドイツにおける「追放」と東アジアにおける「引揚げ」は比較可能であるだけでなく、米国を媒介としてそれは強く関連していたことを明らかとした。(3)長野県飯田市の20世紀を例に見てみると、南米移民や満洲移民の送付、終戦後の引揚げと中国への残留、日中国交正常化後の残留日本人の帰国、さらにはグローバル化以降の中国帰国者、日系南米人、フィリピン人の定住化など様々な人の移動が織りなされ、相互に関連していたことを明らかとした。

研究成果の概要(英文)：The achievements of this research are the followings: Firstly, we explored that the human migration in the 20th-century East Asia was largely determined by the rise and the fall of the Japanese Empire. At the same time, we made it clear that it was closely related to the worldwide movement of the labor force. Secondary, we clarified that the "exile" in Germany and the "repatriation" in East Asia were not only comparable but also strongly linked to each other through the United States. Thirdly, we explored that, looking at such human migration through the example of the 20th-century Iida-city, various types of human migration such as emigrants to South America and Manchuria, repatriates after W.W.II and those who had been left behind in China, the return of Japanese people after the normalization of diplomatic relations between Japan and China, as well as the returnees from China, the Nikkei Latinos, and the Philipinos after globalization were woven and interrelated to each other.

研究分野：社会学

キーワード：人の移動 引揚げ 追放 残留 社会統合 歴史的グローバルシティ

### 1. 研究開始当初の背景

近現代東アジアは人の移動が活発な地域であった。西洋近代による植民地化・日露の帝国化、第二次世界大戦、冷戦、グローバル化等によって多様な人の移動が展開し、それらは相互に密接に関連していた。たとえば、大江志乃夫ほか編 1993 『帝国の膨張と人流』を嚆矢とし、拙編 2008 『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』へと結実する「帝国と人の移動」に関する研究がその代表的な研究である。だが、それらはあくまでも北米移民や満洲移民等、個別の歴史的研究が蓄積されただけで、その相互の関連メカニズムが解明されることはなかったし、環太平洋と東アジアという視点が欠けていた。そこで、本科研に先立つ研究として、「帝国化と人の移動」を対象として、日本帝国を中心とする東アジアにおける多様な人の移動の個別特性とともに相互の関連を明らかとしてきた。本科研は、そのような研究を体系化することが目指された。

### 2. 研究の目的

本研究は、時代を 20 世紀、主な対象地域を東アジアとし、(1)そこで展開された多様な人の移動と相互の関連構造、(2)移動したマイノリティの生活世界、(3)当該社会での「包摂と排除」という社会の統合の有り様に着目し、20 世紀東アジアをめぐる人の移動と国家・社会の対応のメカニズムをトータルに究明することを目的としていた。その際に、人の移動のなかでもとりわけ戦争と多様な人の移動（たとえば引揚げ）に着目し国際比較に挑んだ。また、特定地域に着目して(2)そこで 20 世紀に生じた人の移動をインテンシブに明らかとすることを目指した。そして、帝国圏内でもっとも人の移動性が高かった沖縄と濟州島における 20 世紀の人の移動をインテンシブに明らかとすることを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究の方法は、フィールドワークによる調査、とりわけライフヒストリー法による聞き取りとその解釈という主に社会学で用いられる方法と、文献資料の収集と批判的検討という歴史学の伝統的な実証研究法を主としてきた。そして、アジアの帝国内比較研究と、帝国崩壊後の人の再移動に関する欧米とアジアにおける国際比較を方法のひとつとした。

### 4. 研究成果

本研究の成果は以下のようなものである、まず、(1)20 世紀東アジアにおける人の移動は日本帝国の形成・崩壊によって大きく規定されていたこと、同時に、(2) 20 世紀東アジアの人の移動は世界的な労働力移動と密接に絡み合っていたことを諸事例から明確にした。また、(3)ドイツにおける「追放」と東アジア

における「引揚げ」(帰還)は比較可能な歴史事象であっただけでなく、米国を媒介としてそれは強く関連していたことを明らかとした。さらに、(4)そのような人の移動を長野県飯田市の 20 世紀を事例に見てみると、南米移民や満洲移民の送付、終戦後の引揚げと中国への残留、日中国交正常化後の残留日本人の帰国、さらにはグローバル化以降の中国帰国者、日系南米人、フィリピン人の定住化など、様々な人の移動が織りなされ、相互に関連していたことを明らかとした。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 29 件)

Mariko Iijima, “Coffee Production in the Asia-Pacific Region: The Establishment of a Japanese Diasporic Network in the Early 20th Century,” *Journal of International Economic Studies* (Hosei University), 2018, No.32, 75-88. 査読有

川喜田 敦子、第二次世界大戦後の人口移動 連合国の構想にみるヨーロッパとアジアの関連、ヨーロッパ研究、第 17 号、2017、5-15、査読有

福本 拓、現代日本における国籍とエスニシティの揺動 その空間的側面に着目して、地理空間、2017、9 巻 3 号 267-284、査読有

KASHIWAZAKI, Chikako,

“Multicultural Discourse and Policies in Japan: An Assessment of Tabunka Kyōsei.” *The Gakushuin Journal of International Studies*, 2016, Vol. 3, pp. 1-15.

西澤 泰彦、20 世紀前半の大連における都市空間形成と建築、翰林日本学、第 29 輯、査読なし、2016、243-271

佐原 彩子、合衆国難民政策の人道主義と新自由主義的世界秩序：インドシナ難民受け入れを事例に、歴史学研究(10 月増刊号)、2015、149-158

中山 大将、サハリン韓人の下からの共生の模索 樺太・サハリン・韓国を生き残った樺太移住韓人第二世代を中心に、境界研究(第5号) 2015、1-27、査読有

外村大、戦後日本に在留した朝鮮人被動員者数とその背景、コリアン・スタディーズ(1号) pp.63-75、国際高麗学会、2013

[学会発表](計 24 件)

OGAWA, Reiko, Making of Filipino Care Workers and Transformation of Care in Japan, Moving Care between Japan and the Philippines: Policy, Theory and Experience, Asia Center University of the Philippines Dilliman, 2018.2.15.

八尾 祥平、1960年代の『中琉』合作映画にみる琉・華関係について - 松竹映画『海流』との比較を通して、沖縄文化協会、那覇、2017年6月

坂部 晶子、中国周辺地域における社会主義的近代とジェンダーにかんする研究視点、中日学術シンポジウム及び中日社会学専門委員会成立大会(於北京第二外国语学院) 2016

CHUNG, Jihye、Ambivalent Images of Koreans in Postwar Japan: Non-fiction Moving Images in Post-war Japan、Japanese Studies Association of Australia、Melbourne、2015、審査あり

[図書](計 15 件)

上野 千鶴子、蘭 信三 他、戦争と性暴力の比較史に向けて、岩波書店、2018、全 384

上田 貴子、奉天の近代 移民社会における商会・企業・善堂、京都大学学術出版会、2018、全 378

李 洪章、在日朝鮮人という民族経験 一個人に立脚した共同性の再考へ、生活書院、2016、全 265

蘭 信三 他、帝国以後の人の移動

ポストコロニアリズムとグローバリズムの交錯点、勉誠社、2013、全 1000

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等  
<http://dept.sophia.ac.jp/pj/asiannmigration/activity/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

蘭 信三 (ARARAGI, Shinzo)  
上智大学・総合グローバル学部・教授  
研究者番号：30159503

(2) 研究分担者

上田 貴子 (UEDA, Takako)  
近畿大学・文芸学部・准教授  
研究者番号：00411653

中山 大将 (NAKAYAMA, Taisho)  
京都大学・東南アジア地域研究研究所・助教  
研究者番号：00582834

松浦 雄介 (MATSUURA, Yusuke)  
熊本大学・大学院人文社会科学部・教授  
研究者番号：10363516

飯島 真里子 (IJIMA, Mariko)  
上智大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：10453614

李 洪章 (LEE, Hongjang)  
神戸学院大学・現代社会学部・准教授  
研究者番号：20733760

柏崎 千佳子 (KASHIWAZAKI, Chikako)  
慶應義塾大学・経済学部・教授  
研究者番号：30338222

小川 玲子 (OGAWA, Reiko)  
千葉大学・社会科学研究院・准教授  
研究者番号：30432884

外村 大 (TONOMURA, Masaru)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：40277801

田中 里奈 (TANAKA, Rina)  
フェリス学院大学・文学部・准教授  
研究者番号：40532031

西脇 靖洋 (NISHIWAKI, Yasuhiro)  
山口県立大学・国際文化学部・准教授  
研究者番号：40644977

高畑 幸 (TAKAHATA, Sachi)  
静岡県立大学・国際関係学部・准教授  
研究者番号：50382007

原山 浩介 (HARAYAMA, Kosuke)  
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授  
研究者番号：50413894

福本 拓 (FUKUMOTO, Taku)  
宮崎産業経営大学・法学部・准教授  
研究者番号：50456810

田村 将人 (TAMURA, Masato)  
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・主任研究員  
研究者番号：60414140

坂部 晶子 (SAKABE, Shoko)  
名古屋大学・国際開発研究科・准教授  
研究者番号：60433372

西澤 泰彦 (NISHIZAWA, Yasuhiko)

名古屋大学・環境学研究科・教授  
研究者番号：80242915

川喜田 敦子 (KAWAKITA, Atsuko)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号：80396837

URANO, Edson  
筑波大学・人文社会系・准教授  
研究者番号：80514512

野入 直美 (NOIRI, Naomi)  
琉球大学・法文学部・准教授  
研究者番号：90264465

水谷 智 (MIZUTANI, Akira)  
同志社大学・グローバル地域文化学部・教授  
研究者番号：90411074

八尾 祥平 (YAO, Shohei)  
神奈川大学・経営学部・講師  
研究者番号：90630731

松田 ヒロ子 (MATSUDA, Hiroko)  
神戸学院大学・現代社会学部・准教授  
研究者番号：90708489

花井 みわ (HANAI, Miwa)  
早稲田大学・社会科学総合学院・准教授  
研究者番号：70578476

#### (4) 研究協力者

丁 智恵 (CHUNG, Jihye)  
東京工芸大学・芸術学部・助教

伊吹 唯 (IBUKI, Yui)  
上智大学大学院博士課程2年